

## 事業成果報告書

※下記アドレスにメール添付でご提出ください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
津軽家族農業研究会 (代表者名: 福田 隆巳 )	
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
農家女性は「代替」されたのか——津軽地方における果樹作の技能継承に着目して	
3. 助成額	
360,000 円	
4. 実施期間	
2020年 7月 ~ 2021年 6月	
5. 実施状況	
2020年7月9日 第1回研究会: 企画会議、本事業の趣旨・調査計画の検討	
2020年8月6日 第2回研究会: 研究報告2本(家計のリスクヘッジ、果樹作の労働力供給)	
2020年12月24日第3回研究会: 研究報告2本(農業センサスからみる果樹作の労働力と農業技術の導入、農村における長期的関係性と集団選択)	
2021年1月28日 第4回研究会: 研究報告2本(果樹作における技能と農地相続、果樹作農家における作業と分業)	
2021年2月10日第5回研究会: 調査設計・調査票の検討	
2021年2月12日第6回研究会: 調査票の検討・作成	
2021年2月15日第7回研究会: 調査票の検討・作成	
2021年4月下旬 調査票配布 JA 青森を通し果樹作農家へ調査票を配布(220部)	
2021年6月15日第8回研究会: 調査票データ基礎集計結果と調査報告書原稿の検討	
6. 事業成果と自己評価	
感染症の影響で計画の変更を余儀なくされたが、果樹作農家の労働力・技能の実態把握のための十分な基礎資料が得られた。以下、当初の目標と成果の自己評価を記す。	
研究計画	成果と評価
I. 津軽地方の農家世帯の地域特性の把握	農業センサスおよび集落カードを用いて把握できた(成果物②,③)
II. 農作業の詳細と熟練の要否の把握	調査票調査により、把握できた(成果物①,④)
III. 農家の熟練度別労働者のニーズの把握	調査票調査により、把握できた(成果物①,④)
IV. 農作業タスクのジェンダー差と継承過程	調査票調査により、把握できた(成果物①,④)
V. 果樹作労働力の農業技術との代替傾向の把握	農業センサス、集落カード、調査票調査により把握できた(成果物①,④,③)

なお、当初予定していた大規模な聞き取り調査は感染症対策のため調査仲介機関(JA 青森)より難色が表示され実施できず、質問紙調査のみを実施した(調査票設計の情報収集のための農家 2 名への聞き取り調査は実施)。研究計画Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの内容は質問紙調査に反映させ把握をした。なお、研究計画Ⅳ・Ⅴの詳細のデータ分析は今後の課題に残されている。

また、当初予定していた学会報告については、調査票調査の実査の遅れにより行えなかった。この点についても、調査仲介機関(JA 青森)からのタイミング変更の指示に従った結果である。

以上の通り、予定変更を迫られながらも、制約下での最大限の成果は出せたといえる。

## 7. 提出成果物

- ①津軽家族農業研究会『果樹作における農業技術の実態と意識についてのアンケート調査, 2021』調査票.
- ②庄子元, 2021, 「浪岡地区における農地利用と農業労働力の地域的特徴」『令和 3 年度 津軽家族農業研究会調査報告書 青森市浪岡地区における果樹作の労働力と継承について』, pp.2-6.
- ③庄子元, 2021, 「青森県における農業就業人口の地域的特徴——稲作地域・畑作地域・果樹作地域の比較」『青森中央学院大学地域マネジメント研究所研究年報』17 号, pp. 77-84.
- ④福田隆巳, 2021, 「浪岡地区果樹作農家における労働力、技能開発、継承——質問紙調査の基礎集計の結果」『令和 3 年度 津軽家族農業研究会調査報告書 青森市浪岡地区における果樹作の労働力と継承について』, pp.7-12.